

# みさくぼ

## 文化会館だより

令和7年

# 10月号

第126号

■発行 地域活性化団体 よかつらみさくぼ（管理受託者）

浜松市水窪支所 生涯学習グループ・水窪図書館

■問合せ/☎ (053) 982-0013

### ■町のできごと

#### 「みさくぼ祭り」が盛大に開催されました

初日はあいにくの雨となり、花火は翌日に順延されましたが、山間の夜空に美しく打ち上りました。水窪文化会館では県警音楽隊による演奏が行われ、祭りに華やかな音色が響き渡りました。また、遠山郷の和太鼓チームが仮装行列に初参加し、地域を越えた交流が祭りに新たな彩りを添えました。



#### みさくぼ祭り～よもやま話

水窪祭りはかつて9月14日、15日に行われていましたが平日の開催は運営や観光の面からも考慮して土日に行われるようになりました。当時の15日の水窪祭りでは、敬老の日にちなみ、町のあちこちに敬老席が設けられていました。ご年配の方々が安心して祭りを見物できる心づかいの風景がありました。

## ■文化会館のできごと

### 笑顔の花が咲いた敬老会

9月20日(土)、水窪文化会館ホールで敬老会が開かれました。

今年は町内の77歳以上、633名の方が対象となり、たくさんの笑顔が会場に集まりました。式典のあとには演芸が披露され、長寿をお祝いするとともに、地域のつながりを感じるあたたかな時間となりました。

元気いっぱいの皆さんのが笑顔は、私たちの心をほっとさせ、前向きな気持ちを届けてくれます。これからもずっとお元気で、水窪に笑顔と幸せを広げてください。



### 山とともに生きる祈りのかたち

水窪民俗資料館の隣にある古民家に、秋の「山の講」の祭祀が飾られました。

面積の大部分を山林が占める水窪。

人々は古くから山とともに暮らし、祈りを通してそのつながりを大切にしてきました。

「山の講」は、山仕事に携わる人々が安全を願い、春と秋の年2回行われます。

自然への感謝と、山で働く人々の無事を祈る心が込められています。



## ■文化会館からのお知らせ



### 今年もやってきました「水窪文化祭」

まちの皆さんのが想いと創造が集う、年に一度の文化の祭典です。

芸能発表に作品展示、魅力がぎゅっと詰まった4日間！！

ぜひお誘いあわせの上、ご参加・ご来館ください！

◆芸能発表:11月1日(土)13:00~16:00 水窪文化会館ホール

◆作品展示:10月31日(金)~11月3日(月・祝) 視聴覚室・ホワイエ

～水窪文化祭 特別公演～

今年の文化祭では、元「Thinking Dogs」のギタリスト・服部潤さんをお迎えし、特別公演を開催します。少年時代を水窪で過ごされた服部さんは、プロの音楽活動を経て、現在は養蜂家として新たな道を歩まれています。

2024年には静岡新聞のコラム「窓辺」にて水窪の思い出を綴り、反響を呼びました。

音楽と語りを通じて、水窪の魅力を再発見するひとときを、どうぞご一緒に楽しんでください。



### 水窪文化会館ホールのピアノとステージ無料開放します

11月の開放日 毎週月曜日(10日、17日)

時間 午前9時~午後5時

文化会館のピアノの使用、ご自分の楽器を持ち込むこともできます。



### 星空観望会のお知らせ

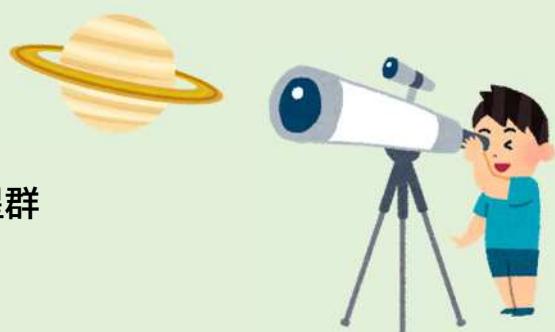
天体観測ドームで星を観ましょう！！

日時 11月5日(水) 午後7時30分~9時

見どころ スーパームーン(今年最大) おうし座流星群

会場 水窪文化会館 天体観測ドーム

小学生以下の方は保護者同伴でお願いします。



## ■図書館だより

読書週間 10/27~11/9(文化の日を中心に2週間)

“こころとあたまの、深呼吸。”

「読書週間」の源流は、1924年(大正13年)。

大量の出版物が焼失した関東大震災からの復興期に日本図書館協会が、全国で読書の鼓吹・図書文化の普及・良書の推薦などを目的とした行事を展開しました。のちに「図書館週間」と名づけられたこの行事には出版界も参加し、年中行事として定着しました。しかし、1939年(昭和14年)戦時下に発令された「一般週間廃止令」により、その幕を閉じることになります。

このような戦前史をもつ「読書週間」は1947年(昭和22年)、終戦の2年後、まだ戦火の傷痕がいたるところに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と決意をひとつに、出版社、取次会社、書店と公共図書館が力をあわせ、新聞、放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から第1回が開催されました。その時のイベントの反響はすばらしく、翌年の第2回からは、文化の日を中心とした2週間と定められ、この運動は全国に広がっていきました。それから80年近く、「読書週間」は日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民」の国となりました。

### 今月のおすすめ本

#### 中山美穂「C」からの物語

中山 則男 /著



この子は売れる。絶対にだー。中山美穂をスカウトして芸能界へ参戦した著者が、当時を振り返りながら、中山美穂とのパーソナルな思い出を綴る。スケジュールノートや秘蔵写真も収録。

#### スッと頭に入る孔子の教え

山口 謙司 /監修



戦乱の世に国を超えて愛され儒教の始祖となった思想家・孔子はどのような人物だったのか？孔子の生涯と弟子たちが書き残した言葉を通して孔子の教えをひもとき、悩み多き現代だからこそ日常に活かせるヒントを伝える。

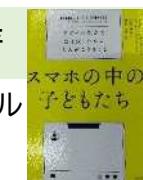
#### 地球の歩き方 J23 信州

地球の歩き方編集室 /編集



長野県のガイドブック。エリアガイドをはじめ、歴史とカルチャー、信州グルメ、お土産＆買い物、宿泊施設などを掲載。取り外せる別冊マップ付き。データ：2024年10月～2025年2月現在。

#### スマホの中の子どもたち デジタル社会で生き抜くために大人ができること エミリー・ワインスタイン/著



大切なのは「スクリーンタイムの抑制」ではなく「主体的にコントロールする力」。子どもたちがデジタル技術を主体的に使いこなす力を身につけるために、大人ができるることを具体的に解説する。

#### 独断と偏見 集英社新書 1268

二宮 和也 /著



俳優やアーティストとしての表現のみならず発信する独創的な言葉の力に定評がある二宮和也。ビジネス論から人づきあいの流儀、会話術から死生観にいたるまで、10の四字熟語をテーマにした100の問い合わせに答える。

#### 山にのぼる 家族で日本100名山 ビジュアルガイドシリーズ

accototo /著



姉弟ゲンカ、天候、体力、トイレ問題…。登山はトラブルの連続!?家族5人で日本100名山に挑戦している一家の山旅エッセイ。1～30座を収録。